



おしえて、聞かせて

青森市民病院

医療最前線

青森市民病院情報誌

ほほえみ

平成30年秋・冬号(Vol. 89)

■病院食レシピ紹介
シリーズ第10弾
季節の献立 その3

■新任医師紹介

■看護局
ニューフェイス紹介

■腎臓の病気
～『蛋白尿』と『血尿』が
指摘されたら～

■地域医療連携室からの
お知らせ

■サマーフェスティバル
2018 開催のお礼

■平成30年12月9日
ウィンターコンサート2018
開催決定!!!

シリーズ⑪

「おらほの自慢のお医者さん」

青森市民病院 泌尿器科

高橋 伸也

久しぶりのおらほの街の自慢のお医者さん
シリーズ⑪は青森市民病院の泌尿器科部長の
高橋伸也先生です。

先生にはお忙しい中取材の時間を作って頂き
ました。



「何かを得るには
何かを失う」

青森市民病院
泌尿器科部長

高橋 伸也

●出身はどちらですか？
愛媛県西条市です。学校は松山です。
高校は部活のない特殊な私立の進学校
です。授業が終わったら適当に好きなこ
とをやれというスタンスでした。
弘前大学を目指したきっかけは特
にないです。

●医者になろうとしたきっかけは？
他の先生方には申し訳ないんですけ
ど、高邁な志があったわけではないです
ね。周りの友人が医学部を受験すると
いう人ばかりでした。周りの友人は熱い
志をもって医者になろうとする人が多
く、自分も影響を受けて自然とそうな
ろうと考えました。だからといって医者
というのが嫌いというわけでもなく、医
者になるのも何も抵抗もなかったで
すね。

●尊敬する先生は？
有名な先生方はたくさんいますが、
個人的には静岡県浜松市で勤務してい
た時の私の8年先輩の上司です。
私は医者になってすぐ泌尿器科の医
師になり、何となく思い切れない、いま
いちこの道に浸かれないという思いを抱
いていたのですが、その先生と6年くら
い一緒に仕事をしながらいろいろ教えて
いただき、それが今につながっています。
そこでその先生と会っていなかったら泌
尿器科をやめていたかもしれません。

●患者さんと接して思うこと、医者としてやりがいを感じることは？

時間を忘れて患者さんの治療や検査、説明に専念できることです。気が付けば時間がかかり経っていることがあり、患者さんのために夢中になれることにやりがいを感じています。

●青森市民病院の以前の勤務先は？

平成16年に青森市民病院に came しましたが、その前は愛知県豊橋市の病院にいました。大学を卒業して5、6年は弘前大学大学院にいました。大学院を卒業して浜松の病院に勤務し、その後大阪で1年半ほど勤務し、また弘前に戻り4年ほどいました。それから愛知県の豊橋市民病院に行き、泌尿器科部長として勤務していました。

●市民病院に期待することは？

市民病院は他の公立病院と比較して、頑張っていると思います。そして挙げるとすれば、外来で診察するとき、患者さんに説明するとき大きな声で言う事もあるの

で、内容が筒抜けなのではないかなと考える時があります。

他の病院でも同じ状況だったりするのでなかなか難しいと思いますが、もう少しプライバシーに配慮できるような環境になればと思っています。

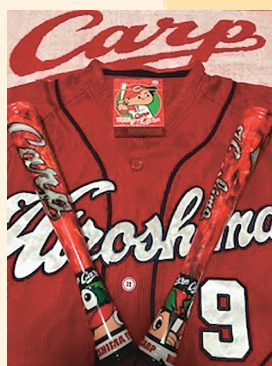
●趣味は？

読書が好きですね。

若い頃はドストエフスキーが好きでしたが、最近は石牟礼道子の作品を読み始めています。『苦海浄土』という作品が有名で、水俣病患者の苦しみや祈りを共感を込めて描いている作品です。

●いま興味をもっていることは？

興味があるのは、野球の広島東洋カープです。子供のころからファンなので最近は何回も見に行っています。ただ、広島東洋カープはとても人気のある球団なので、マツダスタジアムのチケットは非常に取りにくいですね。特に好きな選手はいませんが、広島カープが好き、それに尽きますね。



〈写真提供：カープファン(元市民病院職員)〉



開高健(かいこう たけし、
かいこう けん、
1930年12月30日-
1989年12月9日)

大阪市出身の小説家。1958(昭和33)年、サントリー在籍中に「裸の王様」で芥川賞受賞。1964年、朝日新聞社臨時特派員として戦時下のベトナムへ。「輝ける闇」「夏の闇」「花終わる闇(未完)」の3部作はこの戦争での凄烈な体験を元に書かれている。熱心な釣師としても知られ、日本以外にもブラジルのアマゾン川など世界中に釣行し、様々な魚を釣り上げ、「オーパ!」、「フィッシュ・オン」など釣りをテーマにした作品も多い。現在では浸透している「キャッチ・アンド・リリース」という思想を広めたのも開高だと言われている。



●好きな言葉、大切にしている言葉は?
「何かを得るには何かを失う」

日々新しいことを得るには何かを捨てなければならぬ、例えば努力して勝ち得るためには時間を犠牲にする、逆に何かを失ったとしても代わりに何かを得ているということです。

失わずして何かを得ることはできない、逆もまた然りです。なかなか難しいので常に意識していることは難しいのですが、好きな言葉、願望ですね。

この言葉は開高健の言葉です。純文学の小説家ですが、晩年は釣りに関する文章をよく書いていました。

●職員、医師を目指す若者、研修医に対して一言など

人のため、患者さんのために時間を忘れて何かに没頭する(II診療や治療にあたる)ということは素晴らしいことだなど思います。その気持ちを忘れないように頑張ってください。

●「ほえみ」の読者に対して一言など

平成16年に来て、もう14年間長きにわたっているいろいろな患者さんを拝見させていただいたのですが、ほとんどこちらが教えられることばかりで、非常に頭が下がる思いです。

医者としてこれからも日々精進していきたく思いますのでよろしくお願いします。

